



## 郵便のはじまり

### 電話設置運動も



野付牛置戸間電信電話開通式に参加した名士や加入者（大正11年）

北海道で一番早く郵便役所ができたのが函館で、明治5年7月の開設と記されています。当時は3カ月ばかりあとに23カ所の設置を見ていることから、この間は函館一局で全道を受け持っていたこととなります。

住民の郵便局に対する認識も浅かったようで、切手を買って手紙に貼るのだと教えても、手紙は手紙で差し出し切手は自分の掌に貼ってさっさと出て行く人や、電報を打ちに来てそのまま電線にしばりつけて帰る人もいたそうです。

置戸の郵便事務は明治42年野付牛局区内に属して開始されました。同39年に訓子府駅逓が設置されていたので、訓子府野付牛間の逓送は駄馬で送達され、置戸地区は三浦新吉が逓送配達に当たり、同43年に河合某が駐在員として事務取り扱いを行いました。

明治44年の鉄道開設にともなって移住者が増加し、郵便物の取り扱いが増え、これに設置運動が功を奏して大正元年8月6日に置戸郵便局が設置されました。局長には伊藤寛が就任し、郵便、為

替、貯金事務を扱うようになりました。

しかし、まだ電信電話の取り扱いはなく、置戸駅で公衆電報を扱ってはいたものの、到着は野付牛局から汽車便乗で配達されるといった状態が続いていました。

木工場や商店の取引先も漸次範囲が広がってきていた村では、大正9年に訓子府とともに電話架設の運動を起こし、翌年、古田重静村長が架設委員長となって13名の委員が署名し、趣意書と醸金帳を回しました。

興和木材、秋田木材、本名宗三郎、佐坂俊次、伊藤亀太郎、岡崎豊吉らを筆頭に、ここに77名、1,960円を集め、これに村費を加えた2,560円を負担し、大正11年1月に待望の野付牛置戸間電話共同線が架設され、上常呂、訓子府、置戸3局の電報と電話事務が同時に開始されました。なお、この総建設費は27,150円であり、ときの局長相馬栄作は敷設にあたり、加入者の負担減に大いに努力されたとのことでした。

（参照『置戸町史上巻』 ※文中人名敬称略）

## 防災に関する記述 条例に盛り込むべき

まちづくり基本条例委が報告書を提出



置戸町が目指すまちづくりの基本ルールとして定められた置戸町まちづくり基本条例の進捗状況を審議する置戸町まちづくり基本条例委員会は3月28日、平成24・25年度の報告書をまとめ、井上町長に提出しました。

主な報告事項は、①防災に対する内容の記述に伴う条例の改正②今後のまちづくりにおける地域コミュニティの重要性③町民と議会と行政それぞれの役割と責任—の3点。

小田重孝委員長は「昨年、町内全域で大規模な停電が発生し、町民の防災への関心が高まってきている。これを契機に危機管理や防災体制の確立についての条文を新たに盛り込むべき」と条例の見直しを求め、井上町長は「課題を受け止め、災害に強いまちづくりに努めたい」と応じていました。